



つなぐ

第6号

2011/8発行
地域医療連携室

盛夏の候、暑さきびしく体調の管理などにもお気をつけのことと拝察いたします。皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。震災後、約5か月が経ち、徐々に日常を取り戻されているのではないかと考えています。

皆さまのご支援もあり、地域医療連携室のスタッフ一同、業務に邁進させていただいておりますが、心配された退院支援の停滞は、いよいよ現実のものとなり、常時約60名の患者さんの退院調整に苦慮する毎日です。特に、介護者の住居環境・就労問題・心の問題が大きな壁となっていることが明らかになっております。このことは、1人1人の患者さん毎にデータを蓄積の上で、分析の後に対策を考えなければならぬと思っています。

この問題は5年、10年のスパンで考えなければならぬことですが、早速新しい動きも始まっています。先般の勉強会で医師会の森田先生がお話されたように、各職種の方が集まって、前向きに意見を出し合う「在宅医療の推進をはかる委員会(仮称)」発足に向けて歩んでいることです。これまであまり在宅医療に関心のなかった先生方にも積極的に加わっていただき、気仙沼医療圏の医療・介護連携が遅滞なく進むことを希望しています。

地域医療連携室長 横田憲一

♪新しいスタッフを紹介します♪

7月から、新しい仲間がふえました！！
後方支援を中心に業務にあたります。
気軽にご相談ください。
よろしく願います。



看護師
千葉 美紀

7月から連携室勤務になりました。皆様のご指導を頂きながら、少しずつ仕事を覚えたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

看護学生さんから、地連実習を通して一言いただきました☆

地域医療連携では、退院支援として患者さんや家族の意向を一番に考え、退院後の生活を多職種と連携を図りながら家族と共に話し合っていくため、患者さんや家族は安心して退院後の生活を送れることができると感じました。

気仙沼市立病院附属看護専門学校 3年 遊佐 千尋

退院後に在宅療養・施設への入所等が必要な患者さんを対象に、様々な機関と連携して退院支援を行っている地域医療連携室は、患者さんにとって頼れる場所であると感じました。退院後の生活を考え看護を行っていくことも大切だと思いました。

気仙沼市立病院附属看護専門学校 3年 千葉 遥香

研修会への参加ありがとうございました！

どうしたら入院患者は在宅療養を決定できるか？

ご多忙の中、多くの皆様に参加していただき、ありがとうございました。6月8日は、『どうしたら入院患者は在宅療養を決定できるか？』と題し、永井先生から講演していただきました。講演の中で、点滴継続での問題点とメリットについてお話いただきました。

点滴継続での問題点では、
・現在の状況を中途半端に先送りするだけで、問題解決とはならない。
・先を見通して選択肢を提示していかなければならない。
等の指摘がありました。

また点滴をしないメリットとして

- ① 痰やむくみが少なくなり、本人が楽となる。
- ② しんどい期間が短い。
- ③ 療養期間が限定される。

があげられました。

点滴していれば大丈夫？ということでは

- 時々末梢点滴：一時的な脱水には有用
- 持続末梢点滴：見守りや抑制が必要となるケースが多い。結果的には、カロリーや栄養不足で衰弱
- 中心静脈栄養点滴：予後はどうか？どこまでするか？QOLの問題

と、点滴一つにしても、在宅療養を選択するには様々な事に配慮しなければならない等とても考えさせられました。参加者からも反響が大きく、アンケートの中で“とても興味深く、勉強になった”“改めて、死生観について考えさせられた”“患者・家族の意思を尊重できる看護・ケアをしていきたい”等多くの意見が寄せられました。



医療法人ゆうの森 理事長
たんぼぼクリニック 永井康徳先生

当日はテレビ・雑誌の取材もありました☆



震災後の医療・介護連携について

7月14日の研修会では、当院地域医療連携室長の横田より、『震災後の医療・介護連携』について、阿部から『在宅療養を選択できる支援とは』ということで、事例発表をさせていただきました。

またJRSの皆さんからの活動報告や、今回気仙沼地方に新たに3つの事業所ができました。訪問看護ステーションあした気仙沼ステーション・訪問看護ステーション春圃・セントケアけせんぬまの担当者の方々からお話をいただくことができました。

研修後のアンケートでは、“どのようなボランティアや支援をしているのか内容を聞いて良かった。”“病院の状況やどのようなケアをしているのか聞いて、勉強になった。”“JRSの活動がよくわかりました。”等意見や感想が寄せられ、有意義な研修になりました。

JRSの活動は8月いっぱい予定となっておりますが、今後もこのような勉強会を開催し、医療・福祉・介護の連携を深め、安心して暮らせる在宅療養環境を築いていきたいと思っております。

